

令和 6 年度 県立石下紫峰高等学校自己評価表

目指す学校像	1 「心の教育」の充実努め、人間としての在り方生き方の自覚を深め、豊かな人間性を育成する学校 2 心身ともに健全な活力ある人間の育成を目指し、自主的活動を推進する学校 3 多様な進路希望に対応し、一人一人が主体的な学習を通して自己の能力を伸ばし、自己実現を可能にする学校 4 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、適切な勤労観・職業観を育成し、社会の一員として活躍できる人間を育成できる学校 5 保護者・地域社会との連携を深め、社会から信頼される開かれた学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○地域社会から信頼され、地域社会に確実に貢献する人財を育成します。 ○心身ともに健全な活力ある人間の育成を目指し、自主的活動を推進します。 ○多様な進路希望に対応し、一人一人が主体的な学習を通して自己の能力を伸ばし、自己実現を可能にします。 ○実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、適切な勤労観・職業観を育成し、社会の一員として活躍できる人財を育成します。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○単位制を活かした、きめ細やかでわかりやすく楽しい授業を展開します。 ○体験学習を充実させ、人と人とのふれあいを大事にし、社会性を育み、自律した行動ができるようにします。 ○個別最適な学びと探究活動を充実させ、基礎的・基本的な学力を育みます。 ○多様な選択科目を充実させるとともに、計画的・系統的なキャリア教育により、進路目標の実現を目指します。 ○ホームルーム活動や部活動などの集団活動を通して、心身の調和のとれた発達とコミュニケーション能力を育成します。 ○より良いアクティブスクールに向けた取組を推進します。	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○本校の学習や活動に意欲的に参加し、自己の可能性を信じて前向きにこつこつと取り組む生徒。 ○他者とコミュニケーションを図り、積極的に協働しようとする生徒。 ○社会に貢献する意欲を持つ生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 成果 少人数・習熟度別授業、義務教育範囲の復習、外国籍生徒への日本語の補習等の取組は、基礎学力の定着に十分な効果を挙げた。 また、本校職員のきめ細かな指導とハローワークとの連携による就職指導等により就職内定率 100%を実現できた。 進学希望者へは、きめ細かな指導により、例年に遜色ない成果を挙げることができた。	基礎・基本の学力の養成	①「ISベーシック」や各授業を通して、基礎学力の育成を行う。 ②ICT機器の活用など、多様な個性の生徒へのきめ細やかな学習指導方法の工夫・改善を図る ③授業公開の積極実践と相互研鑽を行い、授業展開の工夫等の教授法の改善に努める。	B
	基本的な生活習慣の確立と生活指導の充実	④生徒の日常の生活実態を把握し、家庭と連携して規則正しい生活リズムの確立を促し、基本的な生活習慣の確立のための指導を充実する。 ⑤欠席、遅刻、早退を減らす。正しい服装・頭髪への指導を行う。交通安全指導を充実し、あいさつの励行を図る。 ⑥いじめや問題行動等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。 ⑦好ましい人間関係づくりの指導・コミュニケーション能力の育成を行う。 ⑧規範意識の確立、道徳心の高揚、他者への思いやり醸成のための指導を行う。 ⑨個人面接等を充実して、生徒理解を深め、生活面で適切な指導を行う。 ⑩教員間での生徒の問題の共有と共通理解に基づく共通行動体制の確立を行う。 ⑪スクールカウンセラーを積極的に活用し、学校と家庭との連携を図る。	A

別紙様式 2 (高)

2 課題 生徒の学習意欲を更に高め、生徒一人一人の多様な進路希望の実現に向けて、ICT 機器の活用など取組の工夫が必要である。 また、体験的な教育活動を十分に活用し、生徒が主体的、積極的に活動する場を提供することで、生徒一人一人が、学校の教育活動と自己の将来をつなげて考えられるような機会の充実を図る。	進路指導の充実	⑫3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人の興味・関心・適性などに応じた「自分さがし」を援助する。 ⑬個人面接等を充実して、生徒理解を深め、長所や短所を把握し、進路面で適切なアドバイスを行う。 ⑭インターンシップ等を積極的に推進し、望ましい勤労観・職業観を醸成する。また、学校見学、各種ガイダンス、検定試験、必要に応じた課外等を充実する。	A
	特別活動の推進	⑮生徒が活力ある学校生活を送れるように、生徒会・部活動の活性化を学校全体で推進する ⑯ホームルーム活動や部活動等の集団活動を通して、心身の発達と個性の伸張、コミュニケーション能力の育成や他者への思いやり涵養などの社会性を育成する。 ⑰キャリア・パスポートを活用し、生徒の主体的に学びに向かう力を育み自己実現につなぐ	B
	より良いアクティブスクールに向けた取組の推進	⑱ISベーシック I 及びISキャリアスタディ I からISキャリアスタディ II・IIIまでの系統的な指導体制を充実させる。 ⑲アクティブスクールを、PDCAサイクルで見直し、より効果的な指導体制に向けた改善を実施する。	B
	地域から信頼され評価される学校づくり	⑳文化祭等の学校行事への保護者や地域住民の参加を促し、地域へのボランティア活動や地域行事への参加を行うことにより、本校への理解と評価を高める。 ㉑近隣中学校や地域への広報活動を一層充実し、学校の特色及び活動を広く知ってもらうことで学校への評価と信頼を高める。	A
	働き方改革	㉒勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める ㉓校務のICT化や教材の共有等をさらに進め、業務の効率化を図る。	A
	授業改善	㉔ 授業満足度 3.5 (KPI)	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	密度の濃い授業を展開する。	学習目標に沿う授業計画を立案し授業に臨む。 ①②	A	・タブレット、電子黒板等を活用し、より深い学習内容の定着めざし、主体的・対話的で深い学びの推進により、思考力・判断力・表現力を育てる ・教員間で細かな打ち合わせを行い、生徒の理解度や指導方法及び定着状況の共有を行う。 ・外国籍生徒の増加により従来よりも出身国が多岐にわたっている。教材はもちろん、指導方法についても、個に合わせた指導ができるような授業を展開する。
		授業実施後は、適宜、生徒の学習内容の定着状況を把握し、授業の改善に努める。 ①②③	B	
教科 国語	基礎・基本の学力を養成する。	生徒の実態を踏まえた年間計画を作成・実施し、その中で絶えず指導の工夫・改善を図る。 ①②③	A	
		学習指導方法や生徒の学習定着状況について、授業担当者間で打合せをし、きめ細かな指導を行う。 ②③	B	
		自由選択科目等を活用しながら、漢字検定・日本語検定の合格者を増やすために指導を徹底し、合格率を高める。 ①④	A	
		日本語を母語としない生徒に対し、必要に応じて特別な教材で対応するなどして、基礎学力の育成を目指す。 ①②	A	
	個に応じた指導を行う。	少人数授業やティーム・ティーチング授業を設定し、個に応じた指導を行うことで、全員が分かる授業を展開する。 ②③	A	

別紙様式2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策			次年度(学期)への主な課題
教	保 健 育	指導内容や指導方法の工夫を図る。	生徒の実態を踏まえ、科目の目標・指導内容等を明確にする。 ②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍生徒(特に1年次)への対応をさらに工夫する。 ・男女共修の授業を展開するにあたり、施設設備の問題やルールの簡略化など、さまざまな条件を整備しつつ、安全な教育活動ができるようにする。
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、ICTを有効活用しながら、教材を工夫改善する。	B		
			多面的な角度から評価ができるように工夫する。 ②	A		
	本校の教育方針に則った授業展開を工夫する。	自主的な活動を促す授業展開を工夫する。 ②	A			
		体育の授業において、コミュニケーション能力の育成を図る。 ②	A			
		体育の授業において忍耐力を養う授業展開の工夫をする。 ②	B			
合理的、計画的な解決に向けて思考・判断力を高める。	授業の振り返りを自己評価カード(個人・グループ)によって行い、次回への目標を明確にする。 ②	A		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを有効活用しながら、教材を工夫改善していきたい。 		
科	芸 術	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	学びに向かう姿勢を大切に主体的、対話的な授業展開を行う。年間計画に基づき目標を明確にする。 ①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・活動通して表現する力を養うことができた。しかし書道や西洋音階に親しみのない国の生徒たちにとって良さを味わうことは難しい。基礎的、基本的な力を身に付ける個別対応が必要だが、全体の中で指導していくには工夫が必要だ。文化経験の違いが顕著な状況の中では指導法の確立が必須である。多様な文化に触れる機会を増やし、文化の違いで取り残されないよう細かく配慮していきたい。 ・ICTを活用して対話的な学びを深め、良さや美しさを感じ取る活動を継続したい。
			生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、生徒の状況を把握して適切な指導改善を継続する。 ②	B		
	個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒の実態に応じて、個に応じた指導を行う等授業展開の工夫を図る。 ②③	A			
		多様性に対応し、個に応じた指導の工夫改善を行う。理解力、表現力を高める授業展開を行う。 ②	B			
	自己評価によって学習の軌跡を振り返る。	自己評価カードやワークシート等を活用する。 ②	A			
外国語	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	科目の目標・指導内容等を明確にした年間計画を作成する。 ①②	生徒一人一人が基礎的・基本的な内容を身に付けられるよう、ICTを活用しながら教材を工夫改善する。 ①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に分かれ、個に応じた指導を行うことができた。 ・外国籍生徒の増加に伴い、さらにレベルに合わせた授業改善を行っていく。 ・外国籍生徒の日本語力向上を英語の授業を通じて行う方法を工夫する。 ・英検等を積極的に受験させ、個に応じた指導を行う。
			教科会等を通し、担当者間や教科内で情報交換を行い、研修に努める。 ①③	B		
			個人に応じた魅力ある授業を展開する。	少人数習熟度別クラス編成により、生徒の実態に応じた授業展開を工夫する。 ②③		
	長期休業中や放課後等を活用し、学習の遅れがちな生徒や進学希望の生徒、英検・TOEIC等を受験する学習意欲が旺盛な生徒に対し、個に応じた学習指導を行う。 ②③	A				

別紙様式 2 (高)

教科	家庭	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	科目の目標・指導内容等を明確にした年間計画を作成する。 ①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実習科目にけるICT機器の活用について、効果的な方法を考えて実践していく。 ・一斉授業にて、日本語が苦手な外国籍生徒も理解できるような授業展開を考える。
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、教材を工夫改善する。 ①②④	A		
			生徒の実態に応じて、ICT機器の活用など授業展開の工夫を図る。 ②③	B		
		長期休業中や放課後等において、学習の遅れがちな生徒や学習意欲が旺盛な生徒への学習指導等、個に応じた指導を行う。①③	B			
	商業	指導内容や指導方法の工夫改善を図る。	科目の目標・指導内容等を明確にした年間計画を作成する。 ①②	B	B	
		個に応じた魅力ある授業を展開する。	生徒一人一人が基礎的・基本的内容を身に付けられるように、教材を工夫改善する。 ①②	A		
			資格取得に力を入れた指導を展開する。 ⑭	B		
		生徒の実態に応じて、楽しく分かる授業展開の工夫を図る。 ②③④	B			
放課後等において、学習の遅れがちな生徒や学習意欲が旺盛な生徒への学習指導等、個に応じた指導を行う。 ②③	B					
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組めるように基礎基本の徹底をはかり、応用力を身につけられるように教材の研究や工夫に努める。 ・検定合格のために、放課後の課外などで個人の生徒にあった指導に努める。 						

項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	基礎的学力養成を基盤とする教育課程の構築	教科・年次間の連絡調整を密に行い、少人数・習熟度別授業を無理なく展開させるための校内体制を整える。また、国語・数学・英語における家庭学習課題をISベーシックと連動するよう、調整を行う。 ①②③⑩⑱⑲	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業展開の研修機会や授業参観をとおして、さらなる授業力の向上を図る。 ・教科、進路、年次と協力し、進学指導を意識した校内体制作りを進める。 ・外国籍生徒の支援に関するカリキュラム等、多くの問題を整理し、早めの対応を検討する必要がある。
		保護者や地域の方々を対象とした公開授業を実施する。また、保護者アンケート調査を実施し、その結果を活用する。 ①②③⑱⑲	B	
		現在の教育課程における課題点を把握・整理し、教育目標達成に適した教育課程となるよう、継続的に検討を重ねる。 ②③⑫⑱⑲	A	
	学習意欲の向上	授業や家庭学習への取組状況の把握に努める。また、進路指導部と連携し、進路希望に応じた課外等の実施を図る。 ①②③④	B	
		少人数・習熟度別授業の実施を継続するとともに、教科を越えて、ICT機器を活用した授業展開の研修や授業を互観する機会、学習意欲を喚起する指導の研修を増やし、授業改善につなげる。 ①②③⑱⑲⑲	B	

別紙様式2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	家庭や地域社会との連携		欠席・遅刻防止の指導や生徒の把握に努め、出席状況や学習状況等について保護者との連絡を密にするために、年2回の保護者面談を計画・実施する。 ④⑤⑨	A	A	
			学校説明会において、本校の特色あるカリキュラムをPRするとともに、体験学習の成果も公開する。 ②③⑩⑪	A		
			本校の教育活動を学校ホームページや各種メディア等とおして、積極的に発信する。 ③⑬⑭	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	日常生活のリズムの確保を図る。	HR、授業、登校指導を通しての日常的な生活指導を重視する。 ④⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の登校指導やSHRで生徒の状況、服装など確認し、各年次で情報を共有し、生徒指導に役立てるよう努力する。 授業や面談等を通して、生徒との信頼関係の構築し、保護者の協力を仰ぎ、連携を密にしながら、日々の生活指導の充実に努める。 交通事故減少に向けて、交通安全講話の実施や車両点検・自転車乗車時のヘルメット着用指導を充実させる。さらに原付バイク通学者対象に実技講習会を実施する。 教職員全員による、「未然防止・いじめ早期発見」を目指す取り組み(研修・講話・アンケートなど)の充実に努める。
		服装、頭髪等の改善と生活マナーの向上を図る。	毎日の服装容儀指導、定期的な集会での検査、不合格者の指導を徹底する。 ④⑤⑧⑨	B		
		交通安全、交通ルールの順守、自転車・バイクの安全運転と管理を徹底する。	集会での講話、校外キャンペーン活動、HRでの指導や定期的な安全検査を実施するとともに、啓発ちらしの配布を行う。 ⑦⑧⑨	B		
	常に生徒の実態把握に努め、いじめ、問題行動や怠学志向の未然防止を図るとともに素早い対応を行う。	面談や観察及び巡回指導を重視するとともに、情報の共有化を図り、年次間で協調して指導をする。 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	A			
		いじめ防止のために、アンケートを年2回実施するするとともに生徒とのコミュニケーションを緊密にとり、教員間で情報を共有し、未然防止及び早期発見に努める。 ⑥⑦⑧⑨	A			
校内生徒指導体制の充実・強化	クラス内の生徒間の好ましい人間関係づくりに努める。	HR経営の研修や各種アンケートを実施する。 ①⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のマナーアップ活動や学校行事などにおいて、生徒自ら生活改善できる機会の提供を推進する。 SCの活用により、担任と年次の連携を強化することで、生徒の生活状況の把握に努める。 SSWの活用により、生徒の抱えている問題を整理し、各関係機関につなげ、問題を早期に解決できるように努める。 外国籍生徒の問題行動について、事実を認識させることが困難な状況があった。今後、保護者の協力を仰ぎながら問題行動に向き合えるよう努力する。 	
	生徒の自主的活動を育て生活改善に取り組む。	特活行事の工夫、生徒参加の校外キャンペーンの実施(さわやかマナーアップ・交通マナーアップ)、自主的体験活動の実施に努める。 ⑬⑭⑮⑯	A			
	教育相談の校内体制を整備し、機能的な取組に努める。	スクールカウンセラー等の相談体制の周知広報に努めるとともに、相談チームの活性化を図る。 ⑨⑩⑪	B			
	家庭、中学校、警察、地域など校外関係機関との連携強化を図る。	P T A 関連行事の活用、家庭訪問や近隣中学校の訪問、警察署との密接な交流などを実施することで、キャンペーンの広報及び協力要請を行う。 ⑱⑲	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	各年次と連携し、系統的・体系的な進路指導を充実させ、生徒の進路希望の実現を図る。	1年次：インターンシップや進路ガイダンスを通し、適切な職業観や進路意識を育成し、2年次の授業選択や将来の進路について考えさせる。⑫⑬⑭	A	<ul style="list-style-type: none"> 各年次をつなぐ系統的・体系的な進路指導の枠組みを確立する。 早期の進路志望の確定を目指し、ISキャリアスタディやホームルームなどと連携した活動を通して、進路意識の醸成を図る。 模擬面接や志望理由書作成などの具体的な活動を充実させ、進路希望の実現を図る。 保護者への情報発信や面談等の充実を図り、進路指導を共有する。 学びの基礎診断を軸に、日常生活や普段の授業での学力向上や生徒の学習への意識付けを図る。 進学内定後に経済面で辞退する生徒が多く出てしまった。内定後の納入まで確認する必要がある。
		2年次：進路別ガイダンスや講話により、生徒個々の進路に関する知識の深まりをめざす。また、模擬面接や履歴書の書き方などの練習を通して、3年次の具体的な進路活動を意識させる。⑫⑬⑭	A	
		3年次：二者面談、三者面談を充実させ、進路目標を明確にさせる。また、個に応じた指導やガイダンス、講習会などへの参加を促し、希望進路の実現をめざす。⑫⑬⑭	B	
	生徒の進路意識の向上を図り、希望する進路を実現させるため、基礎学力の向上をめざす。	学びの基礎診断を実施することで、生徒の実態を把握し、各教科の授業や特別活動、総合的な探究の時間の活動に反映させ、基礎学力の向上に取り組む。⑫⑬⑭	B	
保健厚生	自己の健康保持増進について意識の向上をはかれるように努める。 災害の未然防止と発生時の適切な対応力を身につけ、安全への意識を高める。 環境美化の意識を向上させる。	定期健康診断を実施し、適切な指導を行う。④	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全に関する案件について、ひとつひとつ丁寧に取り組む 外部機関との連携で成立する行事については、綿密な計画と円滑な運営に心がける
		性に関する知識と意識を高められるように、性教育講演会を実施する。④⑪	A	
		救命講習会を実施する。④	B	
		避難訓練を実施する。④	A	
渉外	PTA活動を充実させ、活動に対する保護者の意識高揚を図る。	本部役員を中心に共通理解を深め、会員が協力して円滑で充実したPTA活動が実施できるように努める。⑳㉑	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の望んでいるPTA活動というのは、保護者の負担をできる限り減らし、且つ保護者の要望を満たすものとなる。まずは負担減を優先させるためPTA行事内容の見直しをしていく必要がある。 役員協力や保護者協力が年々難しくなっている現状をどう打開していくのが課題である。 同窓会では、温度差や学校理解度の差があるため、積極的な連携を進めていきたい。
		PTA総会、研修旅行、柏葉祭、各種研修会などのPTA行事を魅力的なものにする。㉑	B	
	広報活動を通じて、保護者の学校理解を深める。	PTA会報の内容を充実させることで、保護者に積極的に読まれるような紙面作りを行う。㉑	B	
	同窓会活動の推進を図る。	同窓会との連携を円滑に進め、活動を活発にする。㉑㉒	B	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書	読書意欲の向上を図る。	図書委員会活動を活性化させ主体的に活動させる。学級文庫等を実施し、読書を奨励する。 ①②⑦⑧	A	B <ul style="list-style-type: none"> 学級図書やおすすめ図書紹介などの取り組みがやっただけで終わりになってしまっている。その先の利用拡大や図書の貸し出し増加というところまでつなげられるようにしたい。また、広報活動とあわせて積極的に周知することをしていきたい。 視聴覚室が用途変更になったこととあわせて、視聴覚教材の扱い方を検討する必要がある。
	図書・資料の充実を図る。	購入希望図書の調査をし、バランスの取れた図書購入をする。① 購入図書の広報、本の情報を掲示・展示する。②⑫	B B	
	図書館・視聴覚室の利用を促進する。	授業に必要な図書・視聴覚資料を購入する。①②⑫ 生徒向けのビデオ上映会を行い、図書を身近なもの意識させる。①	B —	
	図書の整理を進める。	図書の整理(廃棄も含む)を行い、書架を見やすく整理する。①②	A	
	特別活動	HR・生徒会活動・学校行事を通して、自主的で実践的な人間形成に努める。	行事内容を精選・検討し、生徒が創意工夫を凝らして主体的に活動することを目指す。⑮ 生徒会活動を通してあいさつの励行、募金活動、学校美化を図る。⑦⑮	
特別活動	集団意識の高揚を図り、社会性の育成を図る。	あいさつ運動やボランティア活動を通して生徒の自主性や社会性の育成を目指す。⑧⑮⑯ 学校行事等での企画、準備・運営においての生徒の積極的な参加を促すとともに、リーダーとなる生徒の育成を図る⑦⑮⑯	A B	
特別活動	部活動の活性化を図る。	部活動紹介、部活動見学会等を通して、部活に対する意識の向上を図り活性化につなげる。身体の健康、安全を守り、安心して活動できるように環境整備を行う。⑮	B	
			A	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校行事の内容をよりよくし、かつ後期のクラスマッチのように新しい取組ができるようにしていきたい。 クラスマッチにeスポーツを取り入れてはどうか。 学校行事に消極的な生徒が多いのは残念。生徒が参加したいと思えるようにするにはどうしたらよいか課題である。 生徒会の立候補者も増えてきているのでより積極的に生徒自治を進められるようなサポートが必要か。 当番活動や係活動をしっかり取り組ませたい。 ボランティア部と連携し、より外部のボランティア活動に参加する等、学外との関わりを増やしてみようか。学校内での自分の立場や役割にとどまらず、周りを見て動くよい契機になると考える。 部活動の活性化を図るために、外部指導者を活用してみようか。また同好会の新設に関しても2名以上の構成員がいれば可能とするなどして、入部率の向上につながる方策が必要ではないか。

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1年次	基礎学力の育成と学ぶ意欲の涵養を図る。	IS ベーシック I での学び直しの授業を通して、中学校における復習を行う。また、英国数等の少人数授業によりきめ細かな学習指導を行い、基礎力を定着させるための素地を作る。 ①②③⑬⑱	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの過回比較 国数英：AB層2→4、C層以上15→28 D3層80→77 国語：AB層21→17、C層以上53→52 D3層53→42 数学：AB層4→7、C層以上38→40 D3層64→65 英語：AB層20→25、C層以上39→57人D3層29→25 中位層の厚みがでてきたが、D3層は微減にとどまる。ワンウィークトライアルはきちんとやればD3は取らないので、言われたことをやれる生徒を増やしたい。 遅刻が増加した。 5分前登校、3分前教室移動の徹底が崩れている。 引き続き時間管理については厳しく指導していく。
	基本的な生活習慣の確立を目指す。	挨拶の励行と服装容儀指導を全体に徹底させるとともに、手帳を活用することきちんとした生活習慣を身に付けさせ、充実した学校生活を送れるよう個人面談等を通して指導する。 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	B	
	特別活動へ積極的に参加させる。	学校行事への積極的な参加を促し、集団における個人の成長を図る。また、リーダーとなれる生徒を育成することで各ホームルームや学校行事の活性化を目指す。活力ある学校生活を送れるように、部活動への入部を積極的に促す。 ⑮⑯	B	
	進路指導の充実を図る。	キャリアスタディ I やLHR、年次行事等を通して、3年間を見通したキャリア教育の土台作りを行い、地域社会に貢献できる進路指導を目指す。 ⑫⑬⑭⑱	A	
第2年次	基礎学力の育成と確実な定着を図る。	英数国における習熟度別少人数授業を通して、確かな基礎学力を身に付けさせる。授業を大切に、集中して取り組む姿勢を育成する。 ①②③⑬⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎力診断テストGTZ推移(4月→1月) A,B層：総 5→1,国18→7,数 8→5,英25→26 D3層：総93→69,国46→62,数64→37,英53→62 習熟度別少人数授業は一定の効果が表れている。 ②日常的な声かけや個別面談を駆使した指導により、認識改善が大きく進む生徒がいる一方で、生活リズムを壊す生徒も多数いた。家庭との共同連携を強化すると具体的にどのような効果を上げられるか検討していく必要がある。 ③文化祭やクラスマッチ、修学旅行などの学校行事に生徒を活発的に参加させることで、感情的な成長や社会性の向上が確認できた。集団での自分の役割を認識し、実践する意識も育った。ただし、参加意欲の低い生徒への体系的なアプローチには改善の余地が残る。 ④年次から提供する情報を増やしたことやOP参加を夏季課題としたことで進路について探究する生徒が格段に増えた。次年度はAIを用いた文章作成補助ツールを用い、思考整理力と文章力を高めたい。
	基本的な生活習慣を確立させる。	挨拶の励行と服装容儀指導は年次全体で組織的に取り組む。また、日常の声かけや個人面談を指導に活用するとともに、家庭と協力して欠席・遅刻・早退の数を減少させる。 ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪	B	
	特別活動等に積極的に取り組ませ、集団活動を通して社会性を高めさせる。	文化祭、クラスマッチ、修学旅行等の学校行事への積極的な参加を通して愛校心や思いやりの心を育てる。また、集団行動において一人一人に役割を自覚・実践させることにより、生徒の成長を促す。 ⑦⑧⑮⑯	A	
	キャリア教育の充実を図る。	キャリアスタディ II、総合的な探究の時間、LHRを中心に、自己の在り方生き方について探究・深化させ、生徒の進路希望を考慮したキャリア教育を行う。 ⑨⑫⑬⑭⑰⑱	B	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3年次	基礎学力の養成と定着	授業を大切に、集中して取り組む姿勢を育成する。教科指導における少人数・習熟度別授業を通して、確かな基礎学力を身に付けさせる。また、「総合的な探究の時間」やLHRも活用し、就職試験(筆記試験)や上級学校入学試験に対応できる学力向上を目指す。①②③⑬⑱	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就職試験等に対する基礎学力が定着しなかった。計画的に取り組めるようにしたい。 ・欠席、遅刻の生徒が多かった。遅刻の指導については学校全体で指導できる体制作りが必要と感じた。 ・服装容儀や頭髪に関しての指導は減ったが、一部の生徒はまだ規範意識が足りなかった。もっと日常的に指導していきたい。 ・自動二輪や原付無許可登校などの交通関連の指導が多かったため、全体に指導する機会をつくりたい。 ・先を考えずに進路を決定するものが多かった。経済面も含め、家庭でよく話し合う機会を設けさせて進路決定に結びつけたい。 ・「総合的な探究に時間」をもっと綿密に計画して進路指導に活かしていきたい。外国籍生徒の進路指導については教員の情報収集が必要だと感じる面があった。
	基本的生活習慣の確立と生活指導の充実	社会人になることを意識させ、欠席・遅刻・早退が減るように指導するとともに、時間厳守を心がけさせる。④⑤⑧ 普段から正しい服装を心がけさせ、服装容儀や頭髪についても日常的に指導する。④⑤⑧ 個人面談を繰り返し、生徒の実態に踏まえた指導を行う。⑨ 教員間での情報共有を行い、年次全体で生徒指導を行う。⑩	B	
	キャリア教育の充実	教員に対する言葉遣い、校内での所作から来客への会釈(挨拶)に至るまで、社会人として必要な礼儀作法を、日常の学校生活において意識的に指導し、身に付けさせる。⑦ ISキャリアスタディⅢや進路行事を通して、進路学習を進めるとともに、社会に出て必要になることを学ばせる。⑫⑬⑱ 個人面談を通して生徒一人一人に応じた進路指導を行う。⑬ 「総合的な探究の時間」やLHRにおいて、面接指導を十分に行う。また、進路指導室の積極的な利用を推進し、適切な情報収集ができるようにする。⑫	A	
	特別活動の積極的参加	クラスマッチや文化祭等の学校行事を通して、生徒一人一人に活躍の場を与え、生徒個人及び他者との関係における成長を促す。⑬⑲	A	